



**助産師が挑む
「定年後の居場所づくり」**
「ほっとサロン@むさし野」(埼玉県川越市)
大河内千鶴子さん

埼玉県川越市の川越駅前からバスで10分。住宅地に「ほっとサロン@むさし野」の可愛らしい表示を出している2階建ての2軒家がある。

大河内千鶴子さん(63歳)が開設し、この春で3年目を迎えた。活動内容は2種類ある。

毎週木曜日に開くのは、「育児サロン：ほっとサロン」。マタニティママと3歳未満の子供たちが親と一緒にやってくる。育児相談やママたちの情報交換の場である。7、8組の親子が集う。10時から14時まで、ドリンクとお菓子代を含めて1回5000円。

大河内さんは、長く産婦人科病院に助産師として勤務してきた。その現場で、

乳幼児期の子育てに孤独感が募る親を見てきた体験から開設に踏み切った。同世代の女性2人と一緒に必ず見守る。2人とも近所に住む大河内さんの友人だ。決まったプログラムはなく入退室は自由。ランチの持ち込みも自由で、持参した弁当を子供同士、ママ同士で広げるといい。

利用者から「ああ楽しい。実家から帰って以来、初めてゆっくりご飯を食べた」と喜んでもらえた時には、大河内さんは「本当に始めて良かったと思います」と話す。

もう一つは、毎週金曜と土曜に開く「地域カフェ：むさし野カフェ」である。こちらの参加者は中高年の男女だ。挽きたてのコーヒーや茶菓子を前に世間話に興じる。

「若冲展に行ったけどすごい行列で2回とも見ないで帰ってきた」「ベッキーが可哀そうだと思うわ」「舂添さん辞めないね」「長野の人が長生きなのはいい医者がいるからだっつて」「安楽死を認めて欲しいわ」――。

朝8時過ぎから集まってくる。「ここぞで沢山話すと気分がすっきりする」と参加者。

そのうち、75歳の女性が立ち上がり隣室のピアノの前に向かう。ピアノの演奏が始まると、すぐ後ろの男女2人が声を張り上げて歌いだす。「村の鎮守の神様が……」「我は海の子白波の……」。

歌っていた男性が小さなハーモニカを取りだし、ピアノに合わせて軽やかな音色を奏でる。何とも和気あいあいの和や

かな雰囲気だ。

参加者の中には1人暮らしの男性も。「明日は食事が出るので1つも来てます。昼食も頂いています」と顔をほころばせる。土曜日に提供される、スープやパンなどの「ワンコインモーニング」のことで大河内さんの手作りで5000円。10時を回っても参加者が次々現れ、この日は11人が顔をそろえた。12時には終了である。

皆が集う家は、大河内さん夫妻が住む住宅の隣りに建つ。ウッドデッキが整備され、手入れの行き届いた裏庭は繋がっている。

大河内さんは病院を定年退職後に立教大学の「セカンドステージ大学」(RSSC)に2年間通った。同大学の「学び直しと再チャレンジ」という言葉に心が動かされた。国際問題や地域課題などを学んだ。「もう一度勉強したい。何かチャレンジしてみたい」。そんな希望がわいてきた。

着目したのは定年退職後の地域デビュー。「男性のことよく言われますが、フルタイムで働いてきた女性でも同じことです。私自身のことでもありました。こうして、「定年後の居場所づくり」が動き出した。WACの「ミニニイカフェ」開設講座にも、同時に通った。

数年前に購入してから倉庫然としたままの格好の隣家があった。立教大学の仲間や近所の友人たちと一緒にカフェの開設にすぐに走り出した。